

野幌森林公園のシダ植物観察

2021年6月9日(水) 江別市 阿部 徹

シダ植物はスミレのような花が咲かないので、私にはどれも同じ様な姿に見えて区別のつかない存在でした。つまり、長い間シダ植物については全くの素人でした。それが何回かの下見会時に、シダ植物に詳しいボラレン前事務局長の室野文男氏から、いくつかのシダ植物の名前と特徴を教えてくださいました。興味関心を持つきっかけとなりました。また、同じ頃に梅沢俊著の「北海道のシダ入門図鑑」を購入して、実物を写真で確認できるようになったことも参考になりました。以下、シダ植物初心者の私が、野幌森林公園で観察したシダ植物の種類と覚え方について報告します。

1. 野幌森林公園のシダ植物

(1) 去年、観察したシダ植物の種類

(オシダ科) オシダ、ホソバナライシダ、ミヤマベニシダ、シラネワラビ、リョウメンシダ、サカゲイノデ、イワシロイノデ、ホソイノデ、ジュウモンジシダ、(メシダ科) サトメシダ、ヤマイヌワラビ、カラクサイヌワラビ、エゾメシダ、オオメシダ、ホソバシケシダ、ミヤマシケシダ、ウスゲミヤマシケシダ、ハクモウイノデ、(コウヤワラビ科) コウヤワラビ、クサソテツ、イヌガシラ、(シシガシラ科) シシガシラ、(ヒメシダ科) ヒメシダ、ミゾシダ、ミヤマワラビ、(ゼンマイ科) ゼンマイ、ヤマドリゼンマイ、(コバノイシカグマ科) ワラビ、(チャセンシダ科) トラノオシダ、コタニウタリ、(イノモトソウ科) クジャクシダ、(ヒカゲノカズラ科) ホソバトウゲシバ、(トクサ科) トクサ、スギナ、(ハナヤスリ科) フユノハナワラビ、エゾフユノハナワラビ、ナツノハナワラビ、(ウラボシ科) オシヤグジテンダ……計38種

(2) 以前に、観察したシダ植物の種類

(イノモトソウ科) イワガネゼンマイ、(ウラボシ科) イワオモダカ、ホテイシダ、(ハナヤスリ科) ナガホノナツノハナワラビ……計4種

*私が野幌森林公園で観察したシダ植物の種類は、以前のものを含めると42種類です。梅沢俊著の「北海道のシダ植物入門図鑑」には、約155種類が記載されていますので、1/4強を野幌森林公園で観察したことになります。結構な種類が生えていることがわかりました。

2. 野幌森林公園のどのコースで見られるか

(1) どのコースでも見られるもの(個体数に差はあるが)

・オシダ、ジュウモンジシダ、ヤマイヌワラビ、コウヤワラビ、クサソテツ、スギナ、ミゾシダ、フユノハナワラビ、エゾフユノハナワラビ、ナツノハナワラビ

(2) 場所によって群生していたり数多く生えているもの

・ミヤマベニシダ(エゾユズリハコース、開拓の沢線、志文別線)、ヤマドリゼンマイ(エゾユズリハコース、志文別線)、オオメシダ(エゾユズリハコース、桂コース)、サトメシダ(志文別線)、トクサ(開拓の沢線)、サカゲイノデ(大沢コース、桂コース)

(3) 個体数が少なく限られた場所で見られるもの

・クジャクシダ(エゾユズリハコース、ふれあいコース)、ホソイノデ(瑞穂線、ふれあいコース)、ハクモウイノデ(志文別線、開拓の沢線)、ホソバトウゲシバ(エゾユズリハコース、瑞穂線)、ゼンマイ(大沢コース、志文別線)、エゾメシダ(エゾユズリハコース)、オシヤグジテンダ(志文別線)、トラノオシダ(志文別線、ふれあいコース)、イワシロイノデ(瑞穂線)

3. 種類を見分ける方法

(1) 生え方の形で分類⇒ロート状、株立ち、横に長く群生、孤立ち状

①ロート状⇒オシダ、サカゲイノデ、イワシロイノデ、ホソイノデ

②株立ち⇒ミヤマベニシダ、オオメシダ、リョウメンシダ、クサソテツ、ジュウモンジシダ

③横に長く群生⇒ミゾシダ、コウヤワラビ、ホソバシケシダ、ヒメシダ

④孤立ち状⇒エゾフユノハナワラビ、フユノハナワラビ、ナツノハナワラビ

- (2) 全体の大きさで分類⇒大型 (1m以上)、中型 (50 cm前後から1m)、小型 (50 cm以下)
- ①大型→オシダ、サカゲイノデ、ミヤマベニシダ、オオメシダ、イヌガンソク、ゼンマイ
 - ②中型→ホソバナライシダ、ヤマイヌワラビ、ジュウモンジシダ、ミゾシダ、ホソイノデ
 - ③小型→ホソバシケシダ、ミヤマワラビ、トラノオシダ、オシヤグジデンド、ホソバトウゲシバ
- (3) 春芽生えの時期に色がつくもの
- ・芽生えが赤くなるもの→コウヤワラビ、シシガシラ
 - ・茶色の毛 (鱗片) →オシダ
 - ・白い毛 (鱗片) →ヤマドリゼンマイ、ハクモウイノデ
- (4) 個体数が多く至る所で見られるので覚えやすいもの
- ・オシダ→ロート状の大型シダ、丸型のソーラス (胞子のう群) が葉裏面の上半分程につく。
 - ・ジュウモンジシダ→株立ちの中型シダ、葉全体の形が逆さ十字架なのはこのシダだけ。
 - ・ミゾシダ→長根茎から群生する中型シダ、葉形は長三角形で裏に線形ソーラスが2列に並ぶ。
- (5) 個体数が少なく一度見たら覚えられるもの
- ・形が美しいアジアタム→クジャクシダ、葉柄や中軸の鱗片が白く輝く→ハクモウイノデ
- (6) 越冬するもの (雪の下から緑葉で出てくるもの)
- ・エゾフユノハナワラビ、フユノハナワラビ、オシダ、リョウメンシダ、ジュウモンジシダ、サカゲイノデ、シシガシラ、コタニワタリ、トラノオシダ、イヌガンソク (胞子葉のみ)、ホソバナライシダ、ホソバトウゲシバ、オシヤグジデンド
- (7) 葉身や葉柄を含めた全体の形や大きさ、栄養葉と胞子葉は別々か、葉柄や中軸 (葉軸) につく鱗片の形や色、ソーラス (胞子のう群) の形やつく位置、これらを観察して分類する。

4. まとめ

- (1) 下見会時に先輩や仲間から教わったことや図鑑等で確認した、野幌森林公園でのシダ植物の種類や覚え方を記述しました。思い違いや誤りもあると思いますがご容赦下さい。以外と多くの種類があることと、一年を通して観察ができ楽しめることがわかりました。シダ植物は種類が少ないので、その気になればかなりの種類を覚えることは可能です。しかし、形が似ていたり雑種ができやすいとのことなので、同定するのはそれなりに難しいと感じています。
- (2) ワラビやクサソテツ (コゴミ) にゼンマイやヤマドリゼンマイは、山菜として食用となります。ワラビやクサソテツ (コゴミ) は、野幌森林公園内では減少していきなく他の場所でも見られます。しかし、ゼンマイは個体数が少なくヤマドリゼンマイは群生していますが場所が限られています。その中でもゼンマイは、芽生えの時期に採取されているのを何回か見ているので、今後ますます減少していくのではないかと心配しています。



<5月・芽生えが白っぽいヤマドリゼンマイ>

・中央の長く伸びて頭が黒っぽいのが胞子葉



<5月・若い栄養葉が紅色に縁どられるシシガシラ>

*参考資料

- ・『北海道のシダ入門図鑑』梅沢俊著
- ・『野外観察ハンドブックシダ植物』全国農村教育協会
- ・「ボラレンとシダ植物」室野文男氏投稿、エゾマツ 133号